



歯学部創設30周年

発行責任者:歯学部長 宮崎 隆,編集責任者:広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

巻頭言

歯科病院長 川和 忠治

病院長に就任した際、次の目標を掲げました。



1. 患者さんの立場に立った安心と満足感のある医療の提供
2. う蝕と歯周病を重視した医療の推進
3. 術後の管理を重視した医療の推進
4. 確実な知識と技術に基づく高水準の医療の提供
5. 地域医療機関との連携を深め地域の歯科保健と医療の向上に貢献
6. 教育病院として次世代を担う歯科医師の育成

引き続き、これらの目標の実現に向けてご協力を頂きたいと思っております。

大学病院は医療を提供する場であると同時に医療人を育成する場としての使命を担っております。そのために従来の専門診療科に加え新設専門診療科と卒前臨床実習、卒後臨床研修を充実させる必要があります。

新設診療科については、平成16年度に口腔リハビリテーション科と総合診療歯科を、平成17年度には総合内科を開設しました。それに伴う歯科病院内改修工事も行いました。新設専門診療部門については、平成16年2月より予防と術後管理を重視した「お口の健康外来」を、9月には美容歯科、インプラント科、顎関節症科、障害者歯科を開設しました。

また、地域歯科医療連携準備室を立ち上げ、今まで以上に地域医療機関と密接な連携を目指しております。その結果、平成17年度外来患者数は760名/1日、外来収入(総合内科を除く)は約1億3千万/月と予算を上回る実績を残すことが出来ました。

卒前臨床実習については、平成17年度より保存科外来の一角に「共同診療室」を設置し、診療参加型の臨床実習を目指しております。

また、平成18年度より歯科医師臨床研修制度の必修化が実施され、本歯科病院でも97名を採用しました。

平成18年度事業計画は、新医療システムの導

入、口腔外科の改修、矯正歯科外来の改修等を行うことになっております。今後とも皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。

H18年度 科学研究費取得状況

研究活動委員会 上條 竜太郎

去る4月17日、文部科学省並びに日本学術振興会は、平成18年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。昭和大学全体では採択件数136、採択金額は2億5214万円で、昨年度と比較して7件、618万円の減少でした。歯学部の採択状況は下表の通りで、採択件数は67件、採択金額は1億1990万円で、昨年度より件数は1件増えていますが、採択金額は1363万円の減額でした。基盤研究C以外の採択金額が減少したとと基盤研究Aの採択が無かったこと、そして基盤研究Bの新規採択件数(2件)が少なかったことが、採択金額に影響しました。

一方、歯学部の採択金額は、昭和大学全体の採択金額の45.77%にあたります。歯学部の研究活動を円滑に維持するためには、少しでも多くの研究費を獲得する必要があります。今秋の科研費申請に際しては、申請資格をお持ちの先生は積極的にご申請下さいませようお願い申し上げます。

研究種目	平成17年度		平成18年度	
	採択件数	採択金額	採択件数	採択金額
基盤研究A	1	7,020	0	0
基盤研究B	8	36,200	8	29,700
基盤研究C	26	41,200	34	54,800
若手研究B	27	40,000	24	32,100
萌芽研究	6	9,100	3	3,300
合計	68	133,530	69	119,900

(採択件数は新規・継続の合計で、採択金額の単位は千円)
(基盤研究Aの採択金額は間接経費を含む)

公開講座のお知らせ

広報委員長 五十嵐 武

- ・ 第33回 旗の台公開講座
日時:平成18年6月10日(土),14:30~16:00
場所:昭和大学旗の台校舎4号館6階600号室
(第二講演)
演題:【身体にやさしい歯科治療『歯科治療は怖くない!』をめざして】
講師:昭和大学歯学部教授(歯科麻酔学)吉村 節

ドイツ・チュービンゲン大学との交流プログラム

歯学部長 宮崎 隆

今年はドイツでワールドカップが開催されますが、その会場の一つであるドイツ南部のシュツットガルト(メルセデスベンツの本拠地があり中央駅の屋上にはベンツマークが飾られている)の近くに、黒い森とネッカー川の渓谷に囲まれた大学の街として有名なチュービンゲンがあります。大学の設立は1477年で、ドイツで最も古い大学の一つです。ここではヘッセ、ヘーゲルを始め教科書に出てくる多くの有名な文学者や哲学者が学んだ歴史があります。人口8万人のうち学生が3万人で、キャンパスが街といった感じです。典型的な木組みの赤い屋根の建物が建ち並ぶ旧市街の街並みと、ネッカー川の中州のプラタナスの並木(哲学の道)は絵のような美しさです。



つい数日前に雪が降ったというまだ寒い時期でしたが、去る4月13日に、宮崎歯学部長と歯科補綴学教室の樋口講師が同大学を

訪問し、大学本部の歴史のある建物の会議室で、関係者立ち会いのもと、シャイヒ学長、クラウセン医学部長、ルスト歯学部長、ウェーバー学生部長と歯学部間交流協定を締結しました。これまでのいくつかの学部間協定同様に、学生の交流を含めた教育、臨床、研究の各分野での幅広い交流を計画しています。

ドイツの医学は講座制であり、臨床各科の病院が独立しています。歯学部・歯科病院は皮膚科や精神科の病院の近くに独立して、5階建ての診療棟、病棟(閉鎖の予定)と研究棟、講義等があり、別の敷地にインプラントセンターとポリクリ実習室がありました。ドイツには東西併合後29歯科大学があり、5年制で教育しています。歯科は、大きく顎顔面口腔外科、保存科、補綴科、矯正科に分かれており、我が国や米国のようあまり細分化されていません。日本のように卒後研修(インターン)は必修化されていませんが、口腔外科や矯正は3年間の卒後研修を受けないと専門医へ進めないようです。

医学同様、歯学においても日本とドイツの交流の歴史は古く、東京医科歯科大学の増原英一名誉教授を中心にドイツに留学した先生方が集まって日独歯学協会が組織化され、チュービンゲン大学のケルバー教授(補綴学)やシュルテ教授(歯周病)らと長年の親密な交流を続けてきた経緯があります。残念なことに日独の関係者が現職を退き、協会も解散してしまいました。しかし、これから、本学が中心になって、

幅広い日独交流を推進していきたいと思います。もう既に教員の交換の具体的な計画を進めています。

今後教職員、大学院生、学生や同窓生も含めて積極的な交流をお願いします。



大学院オリエンテーション

口腔生理学 井上 富雄

4月10日、午後4時から歯科病院第1臨床講堂で新大学院生に対するガイダンスが行われ、一般大学院入学者が3名、社会人大学院入学者が19名出席しました。学外臨床研修の関係もあって、大学院生が数名出席できませんでしたが、本年も総勢27名(男性13名、女性14名)で多数の大学院生が入学しました。宮崎歯学研究科長から「国際的に活躍できる歯科医師を目指して頑張ってもらいたい」との訓示のあと、立川大学院運営委員長から履修要項の説明がありました。その後、新入生がそれぞれ簡単な自己紹介と抱負を述べて、研究生活を始めるにあたっての決意を感じ取ることができました。

本学大学院はバラエティーに富んだカリキュラムを用意しており、優秀な指導教員も揃っています。これらを十分活用して立派な研究成果を挙げ、世界に羽ばたいて行かれるよう期待しています。



行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 6月 3日(土):富士吉田校舎オープンキャンパス
- 6月10日(土):昭和大学白菊の集い
- 6月22日(木):院内勤務者対象の救命救急講習会
- 6月24日(土):昭和大学父兄会総会
- 6月24日(土):平成19年度昭和大学歯科病院臨床研修医説明会
- 7月 7日(金):夏季スポーツ大会壮行会

歯学部3年生 顎口腔 PBL 始まる

顎口腔疾患制御外科学 片岡 竜太

4月3日より1ヶ月にわたる3年生の「顎口腔PBL」が始まりました。PBL委員会が発足し、平成16年1月に正式にPBLが導入されてから、6回目のPBLになります。昨年の12月に「学生用・ファシリテータ用引き」の初版を発行し、それをういて「学生に対するPBLオリエンテーション」と「ファシリテータ養成ワークショップ」を開催しました。また、学生とファシリテータ間のコミュニケーションをより密にするために、昨年12月よりPBL支援システムを開発、導入しました。さらに昨年12月のPBLより、7号館および12号館のPBL専用の部屋を使用できるようになりました。今回は宮崎 隆教授のご厚意により、もともと歯科理工学実習の枠であった火曜日の午後12時間をPBLの自己主導型学習と双方向型授業であるチュートリアルに使わせていただいております。このようにPBLを取り巻く環境が徐々に整いつつあります。

今回のPBLパッケージ「中山由美子さん」は、学生教育に用いる事を同意していただいた上で、実際の患者さんの診療風景をビデオ撮影させていただき、それを教材として用いております。コーディネータである古屋良一教授、井上富雄教授のご指導の下、今回でこのPBLパッケージを用いるのが3回目になりますが、実際の患者さんの資料を用いているという臨場感が、学生に緊張感を与えているようです。

今後も学生やファシリテータを努めていただいた先生方のご意見をうかがい、中村雅典委員長のもとPBL委員一同、より良いPBLチュートリアルの実現のために、より一層の努力をする所存です。よろしくご指導ならびにご協力をお願いいたします。



顎口腔 PBL を体験して

歯学部3年 徳田 恵理子

4月に履修した顎口腔PBLは1週間に1回、1ヵ月で計4回行われました。今回は2年生後期の口腔の生態系PBLについて2度目のPBLとなるため、班の仲間とも慣れ、議論の進め方も比較的スムーズに行えました。



今回の論点は「顎関節症」についてでした。PBLでは毎回シナリオとそれに付随した資料が配られます。私たちの班は1回目のシナリオで、患者の症例を「顎関節症である」と決め付けて議論を進めました。そのため1、2回目のPBLでは学習項目も沢山でしたが、3回目以降は今まで調べたことをどの程度まで掘り下げたらいいのかかわからず、戸惑ってしまいました。結局、3、4回目では患者は顎関節症の何型であるかという分類のみに議論が集中してしまいました。この傾向は他の班でも見られました。しかし、私たちは顎関節が正常とどう違うのか、正常はどうか、という基本的な質問には答えられませんでした。ここにPBLの難しさがあると思います。授業では教授が私たちに基本と応用レベルをそれぞれのビジョンで講義していただきます。しかし私たちはPBLの中でどこまでが基本で、どの程度が専門分野なのかわかりませんでした。その結果、今回のように本質の部分がわからないまま議論が進んでしまいました。

PBLには良い点がたくさんあると思いますが、専門の講義を習い始めたばかりの現段階では、私たちにまだPBLは早すぎるのではないかと感じました。

顎口腔 PBL を体験して

歯学部3年 吉沢 亜矢子

2年次に引き続き、3年次においてもPBLの授業がありました。

PBLでは、与えられたシナリオから自分達で問題となる点を考えだし、その後ディ

スカッションを行い解決していきます。講義だと、先生の話の聞くだけになってしまい、どうしても受身の授業になってしまいがちです。しかし、PBLは自己学習型の授業であるため、自分が授業の主役になることができます。自分で調べ理解することに対して私はとても充実感を得ることができました。そして、私はPBLにおけるグループディスカッションが大好きです。なぜならば、グループの仲間とディスカッションをしていると、自分では思いつかないような意見が次々と出てきて驚かされると共に、そこから新たな意見を導き出すことができるからです。ディスカッションをしてみて、自分が理解していることや思っていることを相手に分かり易いように話し、理解してもらう事は簡単そうに見えますが、実際に行ってみると難しいことでした。私は、コミュニケーションの大切さが重要であることを改めて感じました。

このように、私はPBLの授業からたくさんのことを学び、考えることができました。私個人としては、もっとPBLの授業を増やして欲しいと思っています。



学生による救急蘇生処置

教育委員長 佐藤 裕二

平成18年3月29日(水), D5新谷聡君が, 東急多摩川線・沼部駅から, 多摩川行き8時9分発の列車に乗ったところ, なかなかドアが開きませんでした。みると, ドアの付近に30代の大柄な男性が倒れており, 右手はけいれんし, 口から泡をふいていました。周りには人垣ができており, みな見守るだけでした。新谷君は勇気を振り絞り, 倒れている男性のそばに駆け寄って呼びかけましたが, 反応はなく, 脈を取ったが触れていませんでした。その時, 110番通報した方が帰ってこれ, 一緒に気道を確保し, 救急救命処置を開始しました。電車の中では難しいので, 周りの人の協力を得て, いったん電車からホームに運び出し, 救急車が到着するまでの13分間に渡って, 救急蘇生を続けました。倒れていた方の瞳孔が開いてくのがわかりましたが, 夢中で救急救命を続けました。患者は到着した救急車に運ばれ, 新谷君は救急隊に事情を説明しました。救急車ではAEDを用いた蘇生を試みたようでした。残念ながら, 患者さんは病院で10時34分に亡くなられたとのことでした。

結果としては残念でしたが, 新谷君の勇氣ある迅速な対応は, 患者の救命の可能性を高めたことは疑いもないことです。昭和大学歯学部で学ぶ学生の良き手本であり, 賞賛に値するものと考えます。

今回のことは, 昨年のD6学生による人命救助に続くものです。教員・学生各位が救急蘇生について復習し, 緊急時における迅速で勇氣ある対応を心がけてほしいと思います。

学会報告 (ISO/TC106 会議: イタリア)

歯科理工学教室 玉置 幸道

平成17年9月25日 - 10月1日の日程で第41回 ISO TC106 会議がイタリア・ローマで行われました。ISO (国際標準機構: International Standard Organization) にはいろいろな部門があり, その中で ISO TC106 (TC: Technical Committee) が歯科部門に該当します。

歯科部門には 充填修復材料, 補綴材料, 歯科用語, 歯科用器具, 現在, 休止中の委員会, 歯科用器械, 口腔衛生用品, 歯科用インプラントの8つの分化委員会があり, さらに各分化会には具体的な名称を掲げた作業グループが設置され, ここで幹事国が座長や書記を務めて直接の討議がなされます。会議の趣旨は時代にマッチしなくなった規格を改定する, あるいは新素材・新技術のための新しい規格を作ることにあります。提出された規格案がグループ内での承認を得ると, 原案 委員会原案 国際規格案 最終国際規格案という手順を踏み, 中央事務局より国際規格として発行されます。ただし, この工程は順調に進んでも3 - 4年は掛かり, もしもど

こかで反対意見や大幅な修正があると, 規格化までに長い期間を要することになります。

日本からは日本歯科材料器械研究協議会, 日本歯科材料協同組合, 各歯科器材メーカーの代表者, ならびに日本歯科医師会, 日本歯科医学会各分科会(理工・補綴・保存など)から先生方が出席されています。筆者は当教室の佐藤温重客員教授に誘われ, 主としてインプラント器材, CAD/CAM, 鋳造関連の会議に参加いたしました。まだ2年目ですが, これから研究に関連した部門での企画立案に役立てるように尽力したいと思います。

報道された歯学部

広報委員長 五十嵐 武

去る3月25日(土)に行われた「昭和大学歯学部ハイテク・リサーチ・センター研究プロジェクト成果発表会」に関する記事が, 次の新聞, 雑誌で紹介されました。

- ・ 日本歯科新聞 2006.4.18.5面: 昭和大学歯学部ハイテクリサーチセンター研究プロジェクトの成果発表会「顎口腔機能障害解明へ」
- ・ 日本歯科評論 66巻: 203項. 2006.6.11発行: 昭和大学大学院歯学研究科「ハイテク・リサーチ・センター」が平成17年度研究成果発表会を開催
- ・ 歯界展望 107巻: 第6号: 1119項. 2006.6.15発行: 昭和大学大学院歯学研究科ハイテク・リサーチ・センタープロジェクト. 平成17年度研究成果発表会が開催される

診療統計

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	16,901	704.2	845.7	725.9
入院患者	309	10.3	14.8	12.1

平成18年4月分

編集後記

広報委員(口腔衛生学教室) 弘中 祥司

GWも終わり, 春らしい日が続くと思いきやどんよりした日続き, 野菜の値上がりも心配な今日この頃です。4月から旗の台で勉強を始めた2年生たちもようやく旗の台生活に慣れてきた感じがしております。6月に歯科医学教育学会が仙台で行われ, 昭和大学歯学部からは沢山の演題が申し込まれている様子です。学生に負けず教員もがんばっている昭和大学歯学部をどうか暖かく見守って下さいませようお願い申し上げます。